

留学生通信

[母国紹介] ギリシャ

My Homeland Greece



ブチナス アレキサンドロス
Voutsinas ALEXANDROS

■ 2007年三重大学博士後期課程修了予定
 ■ 主として行っている業務・研究
 ・急縮小または急拡大管を通過する気液二相流に関する研究
 ■ 通学先
 三重大学 大学院 博士後期課程
 (〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 /
 E-mail : vouale@ees.mach.mie-u.ac.jp)

1 はじめに自己紹介

私はギリシャのアテネで生まれ育ち、その後ギリシャの大学を卒業したあと1年少し働き、さらなる資格を得るため2000年10月に日本に留学しました。その後、三重大学の大学院（博士前期課程）を修了し、現在は流体関係をテーマに博士後期課程の3年生です。

2 ギリシャの主なイメージ

ギリシャと言えば、皆さんはまずはじめにオリンピック発祥の地や歴史を思い出すでしょう。また、数多くの哲学者（ソクラテス、アリストテリス、プラトンなど）、アレキサンダー大王（図1）、さらに工学分野または数学で使われている定理を発見したピサゴラスなどが思い浮かぶでしょう。

また、現在ではギリシャの青い空、きれいな海、白い家や多くの島、特にミコノス島、サントリーニ島（図2）やロードス島をイメージされるでしょう。さらにアクロポリスやパルセノン神殿（図3）も有名です。日本からの観光客も多く、2004年のオリンピックでは、ギリシャという国が広く紹介されました。そのため、私は皆さんが知っているギリシャではなく、現在のギリシャを紹介したいと思います。

3 ギリシャ人

ヨーロッパの中では、南と北で文化や歴史、日常生活が各国で異なります。その中でもギリシャ人はもともと生きるのが非常に上手だと思います。ギリシャ人は、あまり働かない国民だというイメージがあるかもしれませんが、実際はフランス人やスペイン人より多く働いています。しかし、文化や考え方そのものに遊ぶことやリラックスすることが必要だと思っているので、休む時は休む、働くときは働くというメリハリがよく表れていると思います。つまりギリシャ人は文句を言いながらも、よく働きよく遊びます（図4）。また、気持ちをあまり押さえない、ハッキリと気持ちを表に出すため、日常的に小さい口論をしますが、すぐに忘れあまり根に持たないことがギリシャ人の特徴です。そのため、ストレスもたまりにくく、北ヨーロッパなどによくみられる自殺はほとんどありません。

4 今のギリシャ

ギリシャは、もともと人口もわずか1000万人と少なく、日本ほど産業や工業は発達していませんでした。むしろ遅れていたというべきかもしれません。

いっぽう、地理的にちょうどヨーロッパ、アジア、アラブ系の諸国に囲まれているため、昔から貿易を発達させ、現在でも、船会社や船の数は世界でトップ5に数えられています。その上、ギリシャは、特にヨーロッパ人

にとって人気の高い観光地であり、多くの外国人に接するため、ギリシャ人の多くが母国語以外の言語を使えます。

また、キリスト教とイスラム教の国々が混在する地域でもあるため、隣国のトルコとは昔から良好な関係ではなく、さらに、その北方のバルカン諸国（ブルガリア、元ユーゴスラビア、アルバニアなど）でも不安定な状態が続きました。したがって産業の発展は進まず、さらに若者は、現在でも全員兵隊任務に就かなければなりません。

しかし、EU（ヨーロッパ共同体）のコンセプトが誕生して以来、産業、工業、政治経済、治安など多方面で大きな影響と変化が見られます。現在でもギリシャは、EUや外国企業の支援により、急成長を見せており、そのうえ、バルカンの中では、もっとも安定で安全なおかつ発達している国として大きく注目を浴びるようになりました。商業的にも、たとえば、中国がヨーロッパに輸出するときに、ギリシャの港を使用できるよう契約をしたり、ヨーロッパ諸国がバルカン諸国にマーケットを広げるためギリシャを基準国として位置付ける、など重要な役割をギリシャは担うようになりました。

また、2002年から貨幣にユーロが導入され、ヨーロッパ諸国とのアクセスまたは金融業務も容易になりました。このように今後、ギリシャは観光だけでなく、周辺国の中心として、またバリアフリー先進国として、さらに発展していくと期待されています。



図1 アレキサンダー大王



図2 サントリーニ島



図3 アクロポリスとその中心にはパルセノン神殿



図4 ギリシャダンス